



農業委員会が主催するこの意見交換会は、「農業委員会等に関する法律」の規定に基づき、市の農業施策に反映するため農業の最前線で活躍されている方々の意見・要望等を集約することを目的に毎年開催しています。

平成27年2月10日、グラ
ンドエル・サンを会場に「農
業者等との意見交換会」が
開催されました。市議会産
業建設常任委員、市認定農
業者会議役員、両JA関係
者、農業委員ら約50名が参
加し、鶴岡の農業について
話し合いました。

第1部では、鶴岡市農業・
農村振興計画「つるおかア
グリプラン」の後期計画に
ついて、市農林水産部農政
課農政企画室武田壮一室長
から講演していただきました。



武田 市農政企画室長

つるおかアグリプランとは

現在、鶴岡市の農業は農
業産出額の低迷、米価の長
期低迷と4年後の米の本格
的な産地間競争、少子高齢
化の進行と人口減少の加速



小野寺 産業建設常任委員長

といたさまざま問題に
直面しています。そこで、
鶴岡市農業の底力を発揮し
た強い農業が必要と考え、
次の9つの振興方策を掲げ
ています。

- 1、担い手の安定的な育成と確保
- 2、優良農地の確保と効率的な土地利用
- 3、地域の特性を活かした産地づくり
- 4、中山間地域の振興
- 5、環境保全型農業の推進
- 6、農業生産基盤の整備
- 7、交流人口の拡大と農村の活性化
- 8、農業の6次産業化の促進

9、地産地消の推進
これらの方策を推し進め、「オール鶴岡」で生産・加工・販売の好循環の実現を目指すものです。
講演に続き第2部では、本市農業の目指すべき方向を示した「つるおかアグリプラン」の振興方策について意見交換をしました。

JA鶴岡青年部代表の声

「10年前、仲間と語った未来図では、20〜30ヘクタール耕作している自分達があった。しかし現状は出し手が少なく、分散した農地に苦しみ農業をやめた仲間、農地が思うように集積できず、自分のやりたい経営ができ



小南 JA鶴岡青年部委員長



渡部 JA鶴岡女性部副部長

ない仲間がいる。イターンUターンが増えるとは思えない。若い就農者が夢を持って農業をしていける制度にしてほしい。」という意見がありました。

それに対し市からは「新規就農者を育てるためには、地域ぐるみで農地を集め、技術指導をし、経営を委ねる。そして、経営感覚のある農業者を育てることが必要であり、行政も制度資金、技術アドバイザー、研修会を通じたネットワークづくりで支援をしていきたい。」と回答がありました。

JA生産組合長会代表の声

「作付面積の大規模化は避けられないと思うが、鶴岡の農業は3〜4ヘクタ―



庄司 JA庄内たがわ生産組合長会長

ルの農家が多い。この規模の農家も大事にしていかなないと鶴岡の農業は成り立たない。産地づくり交付金の面積要件を緩和してフォロ―するべき。」との意見に、市からは、「転作奨励金めではなく産地形成を目的にしている。ロット確保のために面積要件を設定した。」と説明がありました。

認定農業者の代表の声

「農地中間管理機構における需給バランスの不均衡を解消するため、国への提言が必要。」との指摘に対し、市からは「機構、国にさまざまな形で対応を要請している。」と現状の説明を受けました。

中山間地の農業者の声

「人口の減少、地域コミュニティの衰退が危惧される中で、新規就農者を定着させる取り組みを積極的に行ってほしい。」という意見や、「平場では担い手を中心に集積し、中山間地では組織化法人化を進め、若い人を雇用、教育して後継者を育成してはどうか。」と提案がありました。

交流人口の拡大

その他の意見

「環境保全型農業等をPRするなどして首都圏の学校給食に鶴岡の農産物を使ってもらえるような取り組みや、福祉施設、病院における地元の食材の利用促進



佐藤 認定農業者会議会長



小池 大泉農用地利用等調整委員会会長

など、米の消費拡大に繋がる取り組みを支援してほしい。」

また、「庄内弁を使うと地元の良さが伝わる。農家民宿の増加が鶴岡の魅力形成になる。」などの意見・要望が出されました。

“鶴岡らしい農業”の創生に向けて

この意見交換会で農業委員会三浦伸一会長は、「農業の抱える問題は、米政策の他に人口減少、農業従事者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加、食料自給率の低下など、問題は山

積みしています。生産調整廃止後は、米を基幹作物とする本市農業にとつては大きな影響を及ぼす問題でもあるが、本市の恵まれた潜在的な可能性を最大限に活用しながら、豊かで希望のもてる農業を目指していきたい。」と述べました。

これからの農業を共に考え、農業者の声を施策に活かすため、市当局からはこれらの意見や要望を参考にし、本市農業のあるべき姿を展望して諸問題の解決に向けてご尽力いただければと思います。

また、市議会議員の皆様には、農業者の思いを十分に汲んでいただき、議会活動に取り組んでいただければ



石川 東部農地部会長

ば幸いです。

農業委員会は、この意見交換を通じて農業者の声を集約し、市当局と連携を図りながら、関係行政機関等への意見要望を続けていきたいと思います。

(農業委員 齋藤 英道)



伊藤 農業振興部会長

